

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700277		
法人名	株式会社 SOYOKAZE		
事業所名	神戸須磨ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県神戸市須磨区高倉台6-14-22		
自己評価作成日	令和6年6月18日	評価結果市町村受理日	令和6年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和6年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1)開設して4年を迎えるお客様の笑顔溢れる暖かい施設
2)「笑顔」と「自由」の溢れる楽しい施設
3)全国に約367ヶ所713事業所の「そよ風」がある大きな会社(2023年8月末地点)

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

眺望が開ける高台の住宅地にあり、近隣にショッピングモールがあり、散歩や買い物に出かけやすい環境である。1階に菜園やテラス、2階にベランダがあり、施設内は大きなガラス扉からの採光で明るく開放感がある。全国的に事業展開する法人内の事業所であり、定期的な研修・会議・委員会・防災活動やPDCAサイクルに基づくケアマネジメント等の体制が確立され、記録類も整備されている。利用者の希望や季節感・行事食を取り入れた手作りの食事を提供し、食事の楽しみに注力している。散歩・ドライブ・食材の買い物等日常的な外出、動物王国等への遠足・花見ドライブ等の外出行事を再開している。家族との面会や外出も再開し、家族の遠足参加もあり、利用者と家族とのつながりを大切にしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設より4年目を迎え「笑顔と自由」という理念のもと、お客様や職員も笑顔が多く見れる事業所に向け、少しずつ出来る事を行っています。	事業所独自の理念「笑顔」「自由」について入職時に説明し、玄関ホールに掲示し職員の共有を図っている。毎月発行する「そよ風通信」にも掲載し、職員に周知すると共に、家族とも共有できるよう取り組んでいる。理念をもとに具体的な基本方針を作成し、ユニット会議で利用者のケアや運営等について検討する時には立ち戻り、理念・基本方針の実践に取り組んでいる。	理念や基本方針に地域密着型サービスの意義を盛り込む事について、三役会議(センター長・管理者・計画作成担当者)で検討中である。作成後は、職員への周知と実践に向け、引き続き取り組まれることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状は散歩等にて近隣の方に挨拶する程度の状況ではありますが、今期、8月の周年祭にて地域の方を招くなど行い、地域との関わりを増やしていきたいと考えています。	地域の2つの自治会に加入し、事業所として地域とつながりが持てるよう関係づくりに取り組んでいる。令和6年8月の周年祭には、自治会と連携し地域の人々との交流機会を設ける計画である。天候や時期を考慮しながら、希望に応じて散歩・ドライブ・食材の買い物等に出かける機会を設け、利用者が地域とのつながりが持てるよう取り組んでいる。	事業所として、地域との関わりを増やしていくことを予定している。今後も、地域交流・地域貢献に取り組まれることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状は散歩等にて近隣の方に挨拶する程度の状況ではありますが、今期、8月の周年祭にて地域の方を招くなど行い、地域との関わりを増やしていきたいと考えています。	/	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)		<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年7月より2月に一度(奇数月第四木曜日)開催・実施をしております。また、不参加のご家族様におかれましても、意見・要望を伝えることが出来るよう、返信用封筒と共に用紙を送付し、対応しております。</p>	<p>利用者・家族・あんしんすこやかセンター職員・2自治会会長・地域住民代表・他事業所管理者を、構成委員とし2ヶ月に1回集合開催している。全家族に意見・要望欄を設けた返信用参加案内を郵送し、家族が随時参加している。利用者は、毎回複数の参加がある。会議では「そよ風通信」の回覧と共に、利用者状況・ヒヤリハット事故・身体拘束虐待防止対応等を報告している。構成委員と情報交換・質疑応答を行い、返信された意見等についても共有し議事録を作成している。議事録は、あんしんすこやかセンター・家族・自治会長に送付し、ファイルを玄関前に設置して公開している。次回(7月)会議より、職員状況についても報告する予定である。</p>	<p>議事録は、構成委員全員に送付してはどうか。</p>
5	(4)		<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>コロナの影響もあり、市町村との連携は図れていません。今後は運営推進会議の議事録等の報告を含め、協力関係構築へとつなげて行きたいと思っております。</p>	<p>運営推進会議参加を通じてあんしんすこやかセンターと連携がある。今後、あんしんすこやかセンター主催の研修参加を通じて連携を深める計画である。</p>	
6	(5)		<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎月、全体会議の際に「身体拘束・虐待防止委員会」を開催し、現状についての確認や定期的な研修を行っております。</p>	<p>「身体拘束等適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束等の適正化・虐待防止委員会」を月に1回、全体会議の中で実施している。拘束事例・虐待事例の有無を確認し、適正化に向け良かったケア等の共有を図り、議事録の回覧により全職員に周知を図っている。「年間研修予定表」に沿って、年2回「身体拘束等の適正化に向けて」研修を、全体会議の中で集合形式で実施している。受講者は「報告書・アンケート」の提出、欠席職員も資料配布と「報告書・アンケート」の提出により周知を図っている。「職員チェックリスト」により報告書の提出を確認し、全職員に周知できるよう工夫している。ユニットドアと玄関の開錠は操作が必要であるが、敷地内花壇・近隣への散歩やベランダでの外気浴等で、閉塞感を感じないよう支援している。</p>	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、全体会議の際に「身体拘束・虐待防止委員会」を開催し、現状についての確認や定期的な研修を行っております。	「高齢者虐待防止のための指針」を整備している。毎月「身体拘束等の適正化・虐待防止検討委員会」を実施し、不適切ケアの防止に取り組んでいる。高齢者虐待防止についても、身体拘束適正化と同様の方法で年2回研修を実施している。センター長・管理者との定期的・随時の個別面談等で相談体制を整備し、年2回法人によるシステム内ストレスチェックを継続する等、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議や研修等で権利擁護やそれに関する制度を学習する場をもち、お客様へ出来る事、出来ない事を把握し支援しています。	権利擁護に関する制度について、昨年度は、法務省・厚労省資料や管理者作成の資料等を活用し学ぶ機会を設けている。今年度は、「年間研修予定表」に沿って「成年後見制度について」の研修を、1月に実施することを予定している。近年は成年後見制度の利用事例はないが、今後、制度利用の必要性や家族等から相談があれば、管理者が制度の説明を行い対応する仕組みがある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をしっかり取り、説明を行っております。また今回の法改正で改定された分に関しても、重要事項説明書(別紙)にて取り交わしを行いました。	待機者はあるが、入居相談や入居希望があれば見学対応し、パンフレット等を基に費用やサービス概要等を説明している。契約時は、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。緊急連絡先の確認・保険の適応範囲・苦情対応の仕組み・退居要件等については、共通認識できるよう特に詳細に説明している。契約内容改定時は、変更内容について重要事項説明書別紙を作成・送付し、対面または電話説明で同意を得て、システム内に同意記録を残している。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を用意し、誰でも意見が言える環境を作っていると共に、運営推進会議参加の可否の確認時に意見・要望を伝えることが出来るよう、返信用封筒と共に用紙を送付し、対応しております。	玄関先に意見箱を設置し、意見が出やすい環境整備を工夫している。利用者の意見・要望は日々の会話の中で把握に努め、個別の嗜好品等に反映できるよう取り組んでいる。家族の意見・要望は、2ヶ月に1回定期的に、意見・要望欄を設けた返信用運営推進会議参加案内の郵送により把握に努め、返信内容を運営に反映している。面会時・電話連絡時・毎月の「そよ風通信」等で、行事・日常生活の様子を伝え、意見・要望が出やすいよう工夫している。運営推進会議に複数の利用者・家族の参加があり、事業所・外部者に意見を表す機会を設けている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員面談等を行い、不安や不満等の確認を行っています。	全体会議・ユニット会議を月1回実施し、全体会議では、センター長・管理者からの報告・両ユニット共通事項の共有、「身体拘束等の適正化・虐待防止検討委員会」、研修等を実施している。ユニット会議では、ユニット内の連絡事項や業務・利用者支援についての情報共有や検討、担当者会議等を実施している。会議に参加できなかった職員は議事録の回覧により周知している。日々の検討による決定事項は、内容に応じて職員用・利用者用「申し送りノート」で共有している。随時や、年1回センター長・管理者等との人事考課定期面談を通じて、個別に意見を聴取する機会を設けている。定期的に法人内の「グループホーム協議会」に各事業所から管理者等が参加し、各事業所の職員の意見や提案を共有している。また、法人に直接意見等を伝える窓口を設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度「人事考課」を実施し、労働実績や功績によって、給料の見直しを行っております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力を把握し、定期的に指導や研修を実施しています。社内研修や資格取得に向けての勉強会等に参加するよう周知しています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	兵庫県内に8か所の系列施設があり、定期的に研修等に行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の個々の声や要望を大事にし、可能な限り応えるようにしています。(食事の内容やドライブに行きたい場所等)		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に関しては、お客様の状況や家族の思い等を確認し、可能な限り応えるようにしています。(面会や外出などに関する事など)		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的には、外部のサービスには頼らず、センター内でできるかどうかの確認を行います。不可能な場合や本人や家族の強い希望があった際に実施しております(訪問リハや訪問マッサージ等)		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的に「家」として対応するよう職員に指導・説明をしており、過度な介護サービスを行わず、一緒に何かをするようにしています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急時以外であっても、良かったことや新しく発見した事等を報告するようしております。また居室担当を決めており、担当者や家族の関係を深めるようにも工夫しております。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人数などの制限もなく、ご予約頂き、居室にて面会をして頂いております。 新規来訪のお客様に関しましては、身元引受人様に確認の後、面会をして頂いております。	予約制、居室での家族面会を再開し、馴染みの人との関係継続を支援している。友人・知人との面会は家族経由の予約により対応している。また、家族との自宅・喫茶店等馴染みの場所への外出も再開し、調整や準備等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々レクリエーションや体操等を行い、居室内等で孤独にならない環境にしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	水光熱費や食料料費の精算・返金の際に連絡し様子をお聞きしています。 また、長期入院からの退去などに関する件につきましても、ご家族様からの相談を受け、必要に応じた助言をさせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にお客様に対して要望等を確認しており、可能なことに関しては対応するようにしております。(外気浴や散歩・買い物等)	入居前面談の聴き取り等から「アセスメントシート」を作成している。生活歴・希望・主訴・要望についての情報から、利用者個々の思いや暮らし方の希望等を職員間で共有し、入居後の生活に反映している。日々の関りの中で把握した新しい情報を、メモや「アセスメントシート」備考欄に追記して共有し、人物像の把握・介護計画の作成や見直し・個別支援に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、表情・反応等から推察し、「アセスメントシート」への追記等により、利用者・家族の意向に沿った支援に活用できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に関しては、お客様の状況や家族の思い等を確認し、可能な限り応えるようにしております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を通して、得意な事、不得意な事を把握し出来ることは手伝って頂くなどしています。(家事等)		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の更新等の際は、モニタリングやアセスメントを行い、ユニット会議や担当者会議にて現状の確認等を行った後に、作成するようにしております。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々モニタリングを実施し、気づき等があった際には記録や申し送りノート等に残すようにしております。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様のADL等に変化があった際は、訪問看護や、提携医療施設と連携を図り柔軟に対応しております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や外気浴、買い物などの対応をしております。また、今年3月には遠足にて神戸どうぶつ王国に外出を行いました。	/	
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度、往診医が来ております。また24時間対応も可能であり、夜間等の連絡にも応じてくれます。	月2回、協力医療機関の医師(内科)による往診と、個々の状況に応じて歯科、必要に応じて月2回精神科の往診を受けられる体制がある。専門医等他科受診は、基本的に家族対応としている。週1回訪問看護があり、24時間医療連携体制を整備している。往診・通院結果はシステム内「介護記録」の往診・通院・訪問看護のタイトルを選択して記録し、必要に応じて「申し送り」に赤字で記録し、詳細を共有しやすいよう工夫している。家族には往診ごとに、往診医の報告書(往診記録)を送付し報告している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護が来ております。医療連携体制加算も取得しており、24時間の対応も可能となっております。	/	
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院の医療連携室のソーシャルワーカーと定期的な連絡・連携を図り、ご本人様が退院しても安心して頂けるようにしております。	入院時には、「介護看護サマリー」で情報を提供している。入院中は、基本的に電話で医療連携室のソーシャルワーカーと入院中の状況等の情報交換を行い、早期退院に向け支援している。退院前カンファレンスの開催があれば参加し、退院時には「看護サマリー」で情報提供を受け、必要に応じて介護計画の見直しに反映している。入院中の状況や退院時の情報等について、システム内「介護記録」で共有している。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 番号	第三 項目	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化された方はいませんが、入居時に重度化の指針の説明を行い「看取り」も可能であることを伝えております。	契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を「認知症対応型共同生活介護における重度化した場合の対応・急性期における医師及び医療機関との連携体制・看取り対応に関する指針」に沿って説明し、同意を得ている。現在までに重度化・看取り対応の事例はないが、看取り介護の希望があれば対応する方針である。重度化を迎える早い段階で、意向確認を行い、支援方針を家族・主治医・事業所で話し合いを行うこととしている。看取り介護の希望があれば、「看取り介護についての同意書」で同意を得て、介護計画を見直す仕組みがある。毎年、「ターミナル研修」を継続的に実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故があった際は、事故報告フローに沿って対応しております。また、研修等も定期的に行っており、対応が遅れないようにしております。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度の消防訓練を実施し、自然災害や火災等があった際の対応等の訓練を実施しております。地域の消防訓練に関しては、随時参加していきたいと考えております。	「年間研修予定表」に消防訓練を位置づけ、9月に日中想定 of 自然災害(地震)時火災訓練を、3月に夜間想定 of 火災避難訓練を、可能な利用者也参加して実施している。「防災訓練計画書」「防災訓練報告書」を作成し、回覧により実施内容・課題等を共有している。食料備蓄は「備蓄食料棚卸表」に基づき1階倉庫に3日分を保管し、本社が支給・管理を行っている。備品備蓄は本社支給品を各フロアに設置し、管理者が管理している。地域の自治会長と協力関係を築いており、今後地域の防災訓練が実施されれば参加を予定している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様と職員との顔なじみの関係が出来てきているものの、友人的な接し方や声掛けには十分注意をしています。	「高齢者虐待防止」「身体的拘束等の適正化」「認知症ケア」「個人情報保護・プライバシー」等の研修で、人格尊重・誇りやプライバシーへの配慮について職員の意識向上を図り、利用者支援に反映している。「身体拘束等適正化・虐待防止検討委員会」やユニット会議を通じて、プライバシーへの配慮について共通認識が持てるよう意識づけを行っている。気になる言葉かけ等があれば、随時管理者より注意喚起を行い、未然防止に努めている。「そよ風通信」等での写真使用は契約時に同意を得、SNS等では個人が特定されないよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的にお客様に対して要望等を確認しており、可能なことに関しては対応するようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはお客様に自由に過ごしていただいておりますが、居室にて過ごすことが多い方に関しては、フロアでのレクや体操に参加して頂くよう声かけしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にご本人様に任しておりますが、同じ服装ばかりになってしまう方に関しては、起床時にご本人様にその日の洋服について声かけを行い決めて頂いております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の能力に応じた活動として、食器洗いや食器拭き・テーブル拭きなどのご協力を頂いております。	法人が作成した献立を基に食材を発注し、各ユニットで職員が調理した手作りの食事を提供している。法人として、年2回の嗜好調査結果を献立等に反映している。利用者個々の状況や体調等に応じて、各ユニットで、きざみ・極きざみ食等個別の食事形態に対応している。松花堂弁当等外注食や、ユニットでお好み焼・バーベキュー・流しそうめん・スイカ割り等季節感や行事食を採り入れた献立を企画し、食事を楽しめるよう支援している。誕生日会にはケーキで祝い、希望に応じてファストフードで対応する等、個別の希望を反映している。利用者の意向等に応じて、日常的に食器洗い・食器拭き・テーブル拭き等に参加できるよう支援している。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	性別や体格、病状によって食事の内容を変えております。(減塩、主食の量の調整等)		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回、口腔ケアの声かけ等を行い実施して頂いております。また訪問歯科とも連携しており、定期的に口腔内の確認を行っております。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、失禁等がないように注意しております。また夜間のパット等に関しても、無駄が出ないようにサイズや容量、金額等を検討してから使用するようしております。	利用者の排尿パターン・状況を「排泄チェックシート」に記録し把握している。排便状況についてはシステム内「排泄」記録・「排泄チェックシート」に記録し、排便コントロールについて訪問看護師と連携して支援している。排泄の自立度は完全自立から一部・全介助まで個人差が大きい。基本的に日中はトイレでの排泄・排泄の自立が継続できるよう支援し、ベッド上での介助を要する利用者には不快のない対応に努めている。夜間は、利用者の個々の状況に応じた方法で対応している。ドアの開閉・ドアの外での待機等プライバシーへの配慮を職員に周知している。トイレの位置がわかりやすいようにオレンジ色のドアを設置し、排泄の自立につながるよう配慮している。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、体操や近隣への散歩等の運動を実施し、乳酸菌を多く含む食材(ヨーグルトや乳酸菌飲料、食物繊維の多いもの等)を提供しております。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週に2回の実施としており、平等性と定期的な清潔保持の為に、曜日を固定しております。	週2回入浴できるよう入浴曜日を設定しているが、利用者の体調・気分・意向・外出行事等に配慮して柔軟に対応している。一般浴槽での個浴で、毎回湯を入れ替え、気持ちよく入浴できるよう支援している。利用者の身体状況・体調等に応じて、シャワー浴等で安全に入浴できるよう対応している。入浴拒否が強い場合は声掛けやタイミング等に工夫し、システム内の入浴実績表で実施状況を把握しながら、入浴機会の確保に努めている。利用者個々のペースで、職員との会話を楽しみながら、ゆっくり入浴が楽しめるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に関しては、ご本人様の自由としており、こちらから入眠を促すことはほとんどありません。また朝に関しても、無理して起きて頂くのではなく、お客様のペースにて起きて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の薬に関しては、往診医や薬局の薬剤師等と現状の報告・確認を行い、定期的に内容や量の調整等を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的にお客様に対して要望等を確認しており、可能なことに関しては対応するようしております。		

神戸須磨ヶアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩やドライブ、買い物等を行い、気分転換して頂くようにしております。また3月にはご家族様にも参加して頂ける遠足を行いました。(合計3組のご家族様来訪)	天候や希望に応じて、事業所周辺への散歩、ドライブ・食材の買い物等、日常的な外出機会を設けている。花見・動物王国等への遠足等の外出行事を再開している。遠足には家族の参加を奨励し、利用者と家族と一緒に楽しめる機会作りを行った。家族との個別の外出も、再開している。また、花壇での園芸活動やベランダでの外気浴等、戸外で活動したり気分転換できるよう日常的に支援している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には紛失が無いように、金庫にて預かっており、必要な時には職員と一緒に買い物に行くようにしております。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に、自由に電話ができる環境にはしていませんが、ご本人様の状態等にて必要がある場合のみ、ご家族様等へ連絡するようにしております。また手紙に関しては、年賀状等にて実施しております。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやイス等にて、フロアにてゆっくりできる環境になっております。またトイレはオレンジ色にし、他の方の居室と間違わないような工夫もしております。	事業所建物内は木調を基本ベースにした設計で、共用空間は採光が良く、広くて開放感がある。テーブル席・ソファ等が設置され、それぞれの場所でゆったり過ごせる環境である。折り紙・塗り絵等の作品を飾り、1階の花壇では季節の花や野菜を植栽し、2階のベランダにはプランターを設置して花を植栽し季節感が感じられる。キッチンが併設され、食事の片づけ・洗濯ものたたみ・廊下のモップ掛け等家事参加を通じて、生活感が感じられるように支援している。日課として、午前には、体操・ぬり絵等の個別のレクリエーション、午後には、脳トレ・カラオケ・折り紙等グループでのレクリエーションや制作活動を行い、楽しみながら機能の維持・向上に取り組んでいる。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いており、ゆっくりできるスペースを確保しております。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族やご本人様にとって思い出のある物等を持参して頂き、「自分の部屋」と認識して頂けるように工夫しております。	採光が良く明るい居室に、クローゼット・テレビ台・ベッドが備え付けられている。家族の協力を得て筆筒・引き出し・テレビ・ラジカセ・時計・ぬいぐるみ・写真等、使い慣れた物・馴染みの物が持ち込まれ、自作の塗り絵や職員から贈られた寄せ書き等も飾られ、個々に応じた居室づくりを行っている。利用者個々の身体状況や動線に応じて家具を配置し、衣替え等は居室担当を中心に家族と連携を図り、安全で居心地よく過ごせる環境作りを支援している。居室ドア前には大きな部屋番号とネームプレートを掲示し、部屋間違いがないよう工夫している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造になっており、フロア内に関しては自由に移動できるようになっております。		